

いかと思われます。

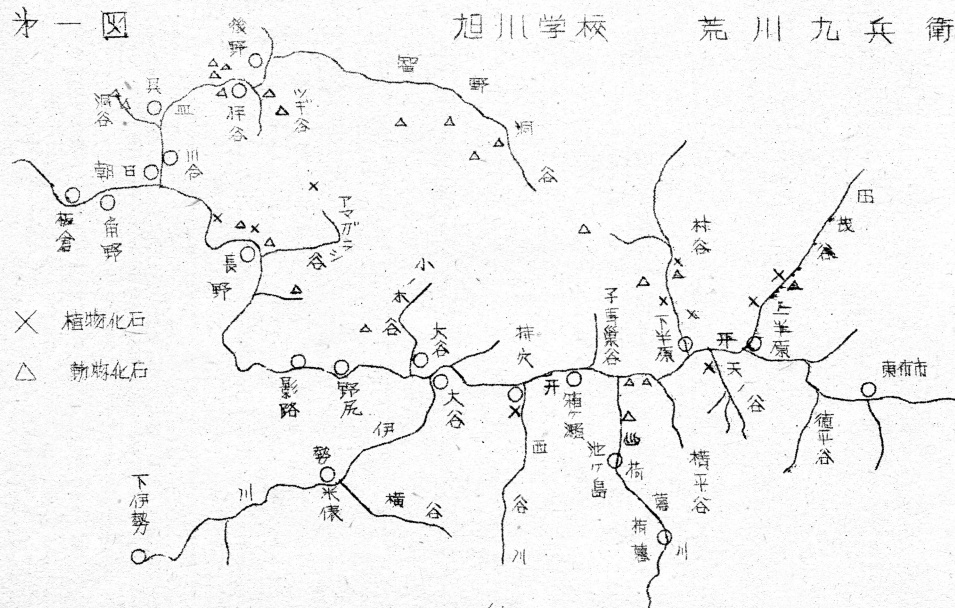
私の交った採集では屠殺場の蒐集です。分類上から是非一通りの動物を集めたいと思って牛馬に寄生する糸虫や肝蛭を採しに行つたのであります。然しそうやすやす糸虫や肝蛭は見当らなかつたが馬の蛔虫や牛の吸虫を多数採集して帰り後屠殺場の獣医様から糸虫もジストマも貰ひ受けて、やつと目的を達した次第で陰で屠殺の状況も詳しく見聞させてもらいました。こんなにして海から山へ川へ屠殺場へと私の採集は所々へ飛び廻つて大変面白い経験をさせて頂きました。最後に乾燥標本の製作について、経験を申し上げます。カニ類、ヒトデ類、ウニ類の様なものをしたら簡単に然かも安価にできるので一度試して見られる事をお勧め致します。先標品を一週間沸かきフオルマリン液に浸しておいて、夏だったら、天日で乾燥すれば数日で干し上ります。天日乾燥出来ない季節には石油で作った手製の天日を成つて、たどんなどを弱火に燃して乾燥させても二日もすれば完全に乾燥します。たゞ乾燥に移る前に形を整えてやらないと乾いてからはどうにもならなくなります。極色のひどいものは油絵具で着色すると見違える様になります。液浸標本では瓶代が高く困るのですが、乾燥標本ではボール箱にでもおさめておけば良いのですから、昆虫の標本と同様に手軽に取扱えます。ガラスの入った標本箱に入れて壁面に飾るのも面白い趣味ではないかと思ひます。

大野郡下穴馬村九頭竜川上流を歩いて

为一图

旭川学校

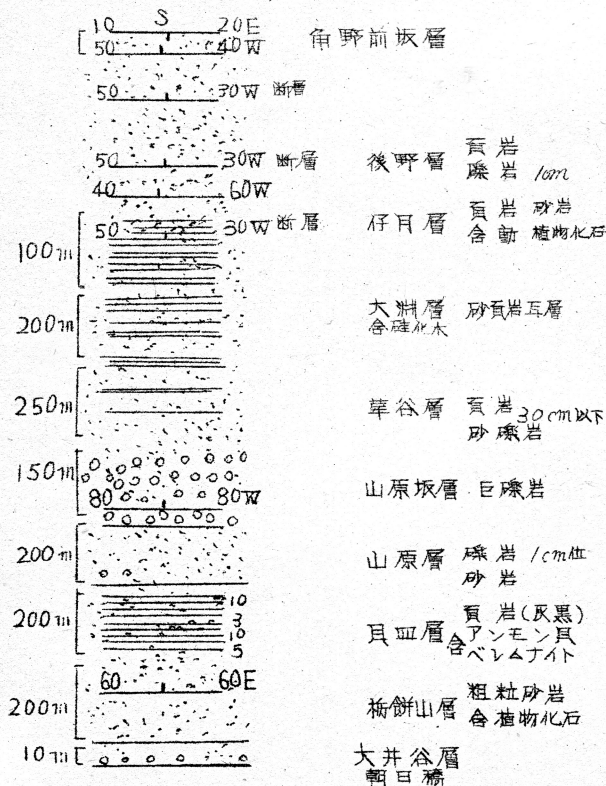
荒川九兵衛



「福井県は日本でも珍しい地質学的に恵まれている。地方で地質の博物館といつてもよい。実に日本一の博物館ですばらしいですよ」と時々先生方より言われるに本当に地質を研究するには恵まれて居ます。オ一表のように古生代而もゴトランド以後の地質構造を調査するに便利に出来ています。然し此の恵まれた福井県の研究は最もおくれていましたが、昭和26年頃より東大の小林先生を初めとして、地質学の权威の先生方が相ついで来県され、研究され、今日では各地方の地質も大分明白になって参りました。唯今の所では大野地方の古生代は金沢大学の尾崎先生、中生代は千葉大学の前田先生、丹生山地は福井大学及金沢大学等々着々研究が進められております。

幸にして私も今年は前田先生の伴をして、九頭竜川上流地方の中生層を歩せて頂き種々教を受けましたのでその一端を発表させて頂きます。オ二図をごらん下さい。これは下穴馬村の朝日から石徹白川に沿つて角野前坂までの柱状図です。先づ朝日橋の所を見ますと砂礫岩の層で大井谷層といわれます。次は礫は非常に細かくなつて砂岩で時々30cm位の頁岩層を含んだ砂岩層で所々に植物化石を含んでいる。板餅山層で次が御存じのようにアンモン貝の出る貝皿層で5cm

オ二図 石徹白川下流柱状図

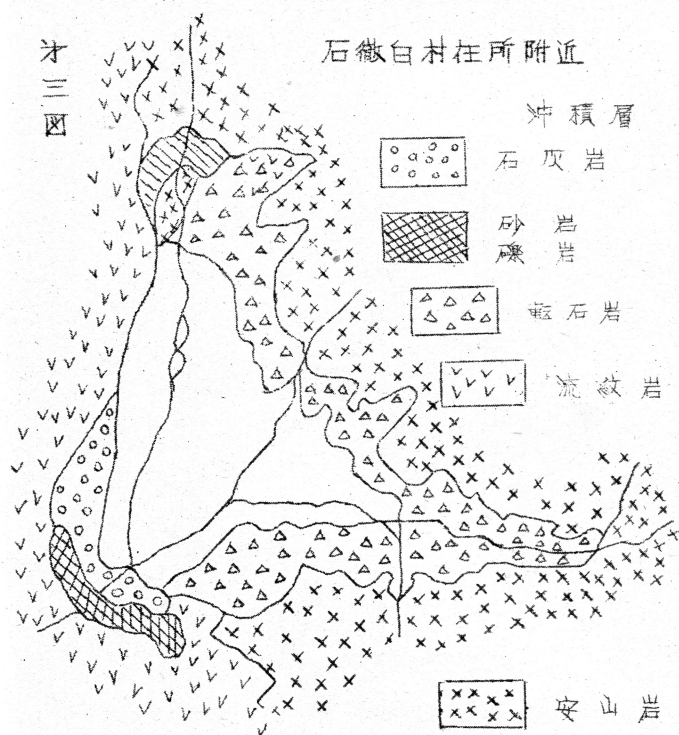


~10cm位の頁岩層で3cm位の砂岩層を互にはさんだ地層であります。此の貝皿層を過ぎて砂岩礫よりなる山原層で礫の大きさは径1cm位以下である。更に山原坂の所は径10cm以上もある巨礫を含んだ礫岩層になっている。約150m位の厚さになっている。そして層向は80度Wで傾斜は80度Nになっている。続いて出て来るのは砂、礫岩で所々に30cm以下の頁岩層を含んでいる。

山原坂層があり、礫も少くは粗粒砂岩と砂岩を主とした頁岩との互層になっている。

次がオ一図にかゝけた化石を含んだ頁岩層であり、これが俘月層です。更に後野に近くなると砂礫岩で礫力径 1 cm 以下の後野層が見れて来ます。後野層は 60 度 40 度 $1/1$ と傾斜もゆるやかになっております。此の様に地質構造を調査するに非常によい地質構造を示しています。そこで私達は此の地質構造が何処まで続いているかを調査するため知那洞に入つて見ました。知那洞谷はオ一図のように層向と大体一致した谷で此の谷に沿って行つても、余り変わったものは見られませんが此の谷の川に流れ込む谷口に入つて調査しました。所が各谷は石徹白川の本流程明白な地質構造は見られませんが、俘月層の続きと思われるような地層が大体標高 600 m 前後の地奥に露出し、俘月にして採集される、しじみ巻貝の化石が、オ一図の示すように各谷々に発見され採集されました。時に此谷で採集しました赤岩ですが、先年博物館で催しました科学講座の時に前田先生よりお話しなさつた白亜紀の赤岩ですがこれを採集したときは私達は思はず万才を叫んだ位大騒ぎでした。そして採集の波も充れてしまつた位です。

営林署の技師さんの話しには此の赤岩は長から大嶺に行く途中の山道に、山一



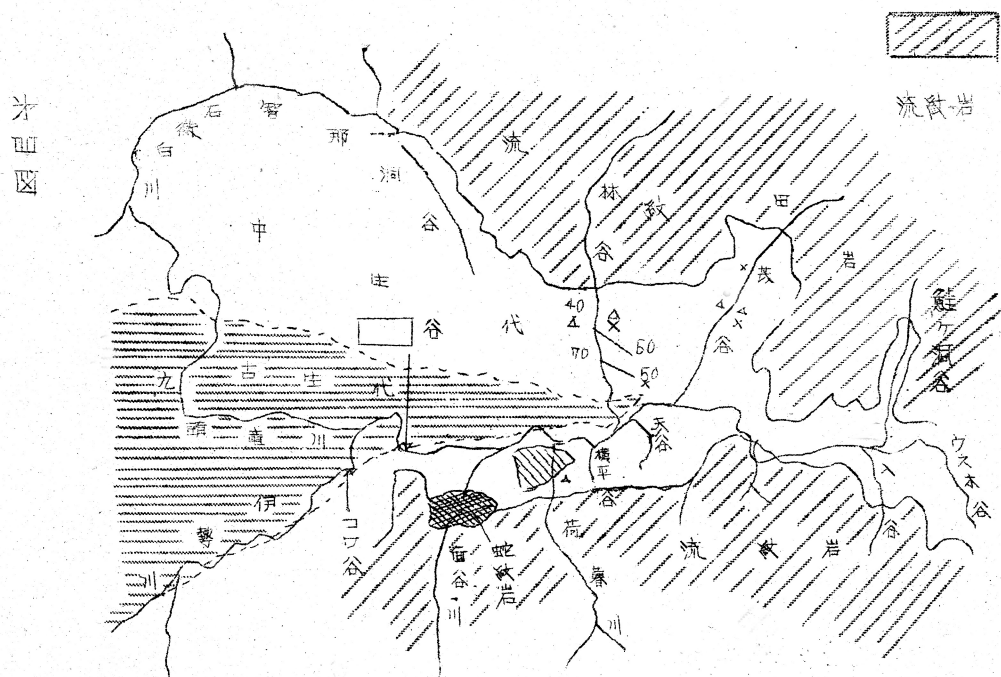
面此の赤岩の地層がある
とか言っていました。末
年は是非採集に参りたい
と思っています。以のよ
うに俘月に産します。

Melanoides vulgaris
Corbicula tetoriensis
Unia sp の層をたど
って見ますと大野市五箇
の歳の化石(しじみ)も
Corbicula tetoriensis
であり、此の中には
(かき)の仲間も含まれ
ているが、凡そ同時代と
見てもよいのではないだ
ろうか。そして流から湧

上、俘月と一連の化石産地となり更に俘月の東の知那洞谷から、上穴馬村の下半
原の林谷、上半原の田茂谷及び子馬簾谷の巻貝、しじみ等はすべて俘月層と見て

よいのではなかろうかと思ひます。そして大野市より更に西勝山市北谷の杉山から出る白亜の化石、五所ヶ原の化石を含む地層と下穴馬村の知那洞谷の赤岩、林谷、田茂谷上流の礫岩層砂岩層は、下部白亜の地層と思はれる。これ等の地層年代の關係は今後研究すれば面白いのではないかと思ひます。

又、上穴馬村の中生層と古生層の研究も仲々面白いものです。特に大谷附近は古生層と中生層の研究は目下着々と進められています。本日の午後は尾崎先生から此の大谷附近の古生層の化石についてお話がありますが、私達も古生層と中生層との境界線を探して此の地方の谷々を入れて見ました。その結果池島の結晶片岩層が中生層にはさまれて島のようにになっている事がわかりました。而も池島の玉の井荘下流の頁岩中及び荷暮川の落合からイノセラスム、アンモン貝、ベレムナイトの化石を発見出来ましたので、持穴礫岩層と下半原の礫岩層が同一時代のものであれば非常に面白い結果が生れて来ますが、目下前田先生が研究中で近い中にその結果がわかつて来るでしょう。



尚、才田図は石徹白村在所附近の地質図で特に、石徹白橋附近の石灰岩層は古生代の石炭紀の海百合の化石を含み、石徹白川の西岸に大きく延びて以前に発表されているのと少々変っているのを掲げて見ました。そして石徹白橋の橋結に中生代の砂礫岩層が露出し、その角礫の石灰岩中に海百合の化石が見えます。

これについても研究を要し、研究が進めば面白い結果を皆蔵におしらせできる

でしょう。九頭竜川上流を歩いて採集しながら、見て来ました所の一端を述べてきました。

才一表 福井県地質系統 (前田四郎先生に依る)

地質時代		標式地	岩石の種類	代表的な化石	地質の動向
新 代	沖積期 100万年	福井・平野 九頭竜川 河床	礫砂		↑現在進行中の 造山運動 ↓大糸造山運動 ↑大糸造山運動 ↑北川造山運動 ↓北川造山運動 ↓古くは造山運動は不明?
	洪積期	坂井郡 陣ヶ丘 金津 今立郡 嶺江	礫砂		
	6000 才三紀	福井平野 西部山地 丹生郡 国見村 鈴川 三本木 坂井郡 金津町 金屋 坂市野野	砂岩 頁岩 凝灰岩 礫岩	ヒカリヤ、アナダラ カキ、シジミ メダセコイヌ 被子植物	
中 生 代	6500 白堊紀	大野郡 北谷村 木村 中野候五所原 今立郡 上池田村 西尾 志津原	砂岩 黒色頁岩 本(緑色)頁岩	ナカムラナイヌ ニッポノナイヌ プリカトウニオ 被子植物 巻貝	↑大糸造山運動 ↑北川造山運動 ↓北川造山運動 ↓古くは造山運動は不明?
	3500 ジュラ紀	大野郡 諸日 西尾、後野 大野市 五ヶ尻 嶺上 大野郡 下穴馬村 伊賀 知那洞谷 大納 大野郡 西谷村 中島 大野郡 上穴馬村 林谷 田茂谷、子馬谷 面谷川 下半原	礫岩 砂岩 頁岩	アンモン貝(菊石) 羊歯植物 ポトザミテス ザミテス クラドブリビス、オザミテス リクテョウカミテス ベレム ナイト シジミ 巻貝 ニッポノナイヌ イノセテラス ウニオ類	
	4000 三疊紀	大飯郡 内浦村、灘波江 青柳村 西三杉	頁岩、砂岩	オキントマトサヘダテン スピリフェラー	
古 生 代	3500 二疊紀	南条郡 宅良村 羊ヶ平 松木ヌ 大野郡 上穴馬村 野尻	砂岩 珪岩 粘板 石灰岩	フズリナ(紡錘虫) オオンエワケリナ クラデイクリフェラ 腕足類 石灰藻等 海百合 フズリネラ	↓古くは造山運動は不明?
	6500 石炭紀	大野郡 石徹白村 下在所 上穴馬村 上伊勢 野尻 中島 南条郡 宅良村 藤倉	粘板岩、砂岩 千枚岩 石灰岩	珊瑚、海百合 フズリネラ (紡錘虫)	
	3000 ゴラン 紀	大野郡 上穴馬村 下伊勢 白馬洞 下穴馬村 長野東	礫岩 結晶片岩 石灰岩 輝綠凝灰岩	海百合 蜂の巣珊瑚 層孔虫 蘚虫類	